

## 令和4年度 第2回 社会教育委員の会議 会議要旨

日 時：令和4年12月19日（月）13：30～  
場 所：生涯学習総合センター 研修室3  
出席者：委員10名、事務局6名

### 1. 開会

### 2. 教育長あいさつ

### 3. 議事

「人口減少社会における社会教育の役割について」

人口減少社会が社会教育にもたらす課題の整理とその対応について、各委員よりご意見をいただいた。

#### ①少子化に関連する課題

- ・子どもの数が少なくなってきているので、何かの行事で、地区単位でやっていたものができず、昔から比べると活動自体ができない現状にある。子どもたちも、子ども会には塾に行くからとか、クラブ・部活動があるから参加できないということがある。
- ・今、子どもを育てるのは凄くお金がかかるので、両親が働きに出るため、地域に参画できず、子どもも塾やスポ少で忙しくて、地域に参画できない。昔と変わってきていることがどんどん出てきており、今の時代に沿ったやり方を模索していかなくてはならない。

#### ②高齢化に関連する課題

- ・リタイヤ後も楽しみがあってなおかつある程度の収入が得られることを教えられるようなものを社会教育として、公民館などでできればよい。
- ・高齢者が社会参加できるような仕組みを前もって作ることも大切である。
- ・80代後半くらいから何の活動もできていないようなので、もう少し地区の中での地域づくりに活かされるとよいと思う。

#### ③社会教育の人材に関連する課題

- ・後継者が不足するので、若い方と一緒にやっという視点、世代交代をしていくということも視野に入れて、一緒にやっということを考えていかなければならない。
- ・親子を一緒にして、子どもの活動だけでなく、大人の活動も一緒にしないと、若者や父親母親世代を集めるのは難しい。
- ・社会教育主事など専門的な資格をとらせて、熱意を持ってやるという部分が行政に必要だと少し思う。
- ・人材はあるのに活用されていない、人材が欲しいんだけど、活用できないという問題があるので、何かに登録して、必要な人が活用するというような仕組みがあればよい。
- ・学校の部活動は、担任の先生が受け持ちじゃなくて、外部の方をお願いするというように変わってきているが、情報が無いので、結局探せない。そういう窓口を広げて、困ったときにすぐに人材を派遣できるシステムを作っていただきたい。
- ・地域学校協働本部では、学校は基本的にコーディネーターをお願いするというシステムなので、コーディネーターには生涯学習指導者情報提供制度を把握しておいていただきたい。コーディネーターは苦勞して、個人であちこち探して一生懸命やっているが、たぶん制度が分かってないと思う。
- ・生涯学習指導者は、さっと見ただけでも、なかなか素晴らしい講師がいっぱいいるので、もっと宣伝したほうがよい。

- ・やりがいがあるから全部無償でということではなくて、自分が一生懸命やったことが少しでも報酬に繋がるということは、これから大事だと思う。
- ・今現在、リーダーづくりというところに子ども会で集中してやっているが、そういったことも社会教育の中でどんどんやっていっていけばよいと思う。

#### ④事業の内容に関連する課題

- ・公民館でタブレット支援の養成講座などを実施して、タブレットを使う授業のときなどに、地域学校協働本部を通して入っていただけたら、学校はありがたい。高齢者の社会教育の成果として、学校で子どもたちと一緒にやるというような形ができるとよい。
- ・ICTの活用が進んでいるので、お年寄りの方にPCやスマホの使い方を教える講座を開催するのはよい。市民のニーズをキャッチして、時代に応じた事業内容を展開していくのが基本だと思う。
- ・老人福祉センターでスマホ教室、パソコン教室をやっている。教室に参加するのに何らかの参加費というのは払わなければならないが、そのような学習の場もある。
- ・スポーツにしても文化にしても、触れる機会をなるべく増やしていくということがこれから将来的に繋がっていくと思う。

#### ⑤地域づくりに関連する課題

- ・高齢者だけ、子どもだけの組織ではなく、高齢者も子どもも色んな方が集まってできたような組織で地域づくりに持っていければ、もっと活性化する。コミセンでは運営に高齢者の方が一生懸命携わっているが、子どももたくさん集り、高齢者とコミュニケーションをとるような活動もしている。そういうものがもっと発展していくと良い。
- ・学校は子どもたちの活動を支援してくれる市民を求めているので、社会教育と学校教育が連携を図って、高齢者も含めて市民の活躍する場を作り、市は財政的なサポートをして、市民と学校がウインウインの関係を作っていくという方向性もあると思う。
- ・高校でも未経験の部活動をいっぱい受け持っている教員が沢山いて、部活動支援員に来てもらっているが、全部でないのでは人が欲しい。仕事を持っていながら、空いた時間に、土日だけ来てもらってもすごくありがたいので、そういう体制があればよい。

#### ⑥地方財政・行政サービスに関連する課題

- ・金を払っても、聞きたい、勉強したいというものを提供することが大事である。
- ・交通手段がないと来れないが、近所のコミュニティセンターみたいなところだと来れる人がいるから、講座も出かけて開催することが必要になる。
- ・高齢者の交通手段ということでは、老人福祉センター、鶴ヶ城体育館、風雅堂、文化センターは、ハイカラさんとあかべえが通っているので使いやすい。
- ・町内会館があまり活用されていないので、社会教育にもっと活用できないのかと思う。例えば、ちょっと開放すれば、もっと子どもたちが集まったり、高齢者も集まって、一緒に活動することもできると思う。
- ・色々な事業などをやっているが、もっとこういう窓口があるとか、こういうことをやるとかアピールすべきである。

今回の議論を踏まえ、課題への対応を整理し、次回の会議では今後の方向性について検討することとなった。

#### 4. その他

#### 5. 閉会